

大分県開催<とり天ラウンド>

H28.9.17(Sat)

於:コンパルホール

九州ネットワーク研究会「とり天ラウンド」が、岩手県、神奈川県、広島県、福岡県、佐賀県、宮崎県、大分県内からの参加者合計31名により開催されました。



1. トピックス 「今後の体育・保健体育の動向」 桐蔭横浜大学 佐藤豊 教授



中央教育審議会の答申を目前に控え、次期学習指導要領に示される「深い学び」に関わり、「大人の考えるゴール像では、子ども達が混乱する。各校種の子どもの発達に合わせて整理していく必要がある。」などの話題が提供されました。

2. 協議 「アクティブ・ラーニングの視点に基づく学習指導について」

「技能を身に付けなくてはならない場面で、安易に話し合い活動になるようなことが危惧される。」「知識と技能がセットになったとき、どう評価するのか、見通しが持ちにくい。」などの課題が出されました。佐藤先生からは、「今しっかりやるのが来たる変化に備えることにつながる。知識と技能は最終的にはトータルでの評価になるだろうが、総合する材料をそろえる必要がある。」とのまとめがありました。

3. 実践報告 「『学びに向かう力』と思考力・判断力・表現力を育む本県の授業実践」

①大分県教育庁体育保健課 後藤真一郎指導主事

アクティブ・ラーニングの視点から、大分県教育委員会が推進する「新大分スタンダード」の説明をしました。

②大分大学教育学部附属小学校 小野雄平教諭

3年生「身の回りのかんきょう」の授業で、教室の明るさ調節や煙を使った実験など、体験を通して理解させ、友達にアドバイスするカードを書くことで思考力・判断力・表現力を育成する実践の報告がありました。



③日田市立有田小学校 岩崎敬教諭



ICTを活用して、走り方や投げる動作の動きの改善につなげる取組みの紹介がありました。「体育は教材研究の多様性があり、道具の工夫で子ども達ができることがうれしい。九州ネットへ参加して研修することが私の栄養剤です。」との言葉で発表を終わりました。

4. 情報提供 「追悼 恩師 関岡康雄先生から学んだこと」岩手大学 清水 将 准教授

9月12日に急逝された関岡康雄筑波大学名誉教授の教えを伝えていただきました。「学ぶことをやめたら指導することをやめなければいけない。」「教えずちゃいけない。コーチングはウェイティング、待たないとだめ。」「指導者のあり方には哲学が大事。何を教えるか、スポーツをちゃんと理解してね。①技術②ルール③マナー④安全」「選ばれた人(選手)だけに教えるんじゃない。」と、「競技者」という言葉にこだわった関岡先生の、学校体育にも通じる哲学に触れさせていただきました。



5. まとめ 桐蔭横浜大学 佐藤豊 教授

経験主義的学習と系統主義的学習は二項対立ではなく両輪として大切であり、万能薬はない。両方のメリット、デメリットを分かった上で処方していくのが授業で、教える時間と考えさせる時間をどう配分するかが大事。今ある「いい授業」をモデルにして考えていくと、深い学びにつながるとまとめられました。

※清田先生の台湾レポート、青木先生のアメリカレポートもあり、日本と違う世界を知ることができました。

6. 情報交換会 (夜のとり天ラウンド)

各地のおいしいお酒と、大分名物関アジ関さば、とり天を味わいながら、あっという間に時間が経ちました。